

東京ミッドタウン日比谷でGW期間に開催される「HIBIYA LIVE FESTIVAL 2026」「ステップショー」のオープニングアクトにミュージカル『天使にラブ・ソングを～シスター・アクト～』カンパニーが登場し、森公美子さん、彩風咲奈さんがトークショーを行いました。



MC：本日はミュージカル『天使にラブ・ソングを～シスター・アクト～』トークショーへお越しいただき、誠にありがとうございます。本作は『天使にラブ・ソングを』のタイトルで日本でも大ヒットした映画が原作です。2014年に帝国劇場で日本初上陸を果たし、連日満員の客席に笑いと感動が舞い降りまして、その後も再演を重ね、全国各地で熱狂の渦を巻き起こしました！そして再び、熱いご要望にお応えして、本年2026年に6度目の上演となりました。歌手・デロリス役には、日本初演から同役を演じる森 公美子さんと、元宝塚歌劇団雪組トップスターで、宝塚退団後、初のミュージカル出演となる彩風咲奈さんのWキャストが実現！本日は、先日東京公演の千穉楽を終え、5月からの全国ツアー公演を控える森さん、彩風さんに、時間の許す限り、『天使にラブ・ソングを～シスター・アクト～』のお話を伺います。

まずはこの「HIBIYA LIVE FESTIVAL」に参加ということで、お二人にとって日比谷といえばホームグラウンドといった感じでしょうか？

森：現在、帝劇が休館中ではありますが、私は帝国劇場・日生劇場・シアタークリエを回っているというか、出演させて頂くことが多くて。最近ではチャリチョコ（ミュージカル『チャーリーとチョコレート工場』）を見に日生に行きました。

MC：なるほど。プライベートでも日比谷はよく行かれるんですか？

森：プライベートだと、ここ（東京ミッドタウン日比谷）のパン屋さんが美味しいですし、予約困難なお寿司屋さんに伺ったりもしています。

MC：グルメな森さんの言うことだから間違いないですね。彩風さんはいかがですか？

彩風：私はお隣に東京宝塚劇場があるので、あまり東京のことを知らない時分でも「日比谷なら何回も行ってるのでわかります」という感じでした。本当に慣れ親しんだ場所です。

MC：彩風さんは結構普通に歩いてらっしゃるって、小耳に挟みました。

彩風：そうですね（笑）。こちらの映画も見に来ますし、ここから見えるそちら（Buvette（ブヴェット））のクレームブリュレも好きです。

森：1階のね。おいしいよねー！

MC：さて、2026年公演の東京公演が千穉楽を迎えまして、今回は明治座での上演となりましたが、いかがでしたか？

森：明治座公演はのぼりが立つんですよ！一回自分ののぼりが立ってるところを見たいなと思っていたので、夢が叶ったなと思っています。

MC：彩風さんはどうでしたか？

彩風：私ものぼりが嬉しくて、わざわざ写真を撮りに行きました！

森：私も！でもそういう時に限ってうまく撮れない…（笑）。

彩風：風向きで反対に向いてしまったりして、難しかったですよね（笑）。

MC：公演としてはどんな1ヶ月になりましたか？

彩風：1日1日が楽しくてあっという間で。「今日も1日楽しすぎて終わってしまったな」という、楽しいと寂しいが同時にやってくるような気持ちでした。

森：最後にお客様と皆で「Raise Your Voice」を振付付きで踊るんですけど、その頃には、ああ、終わっちゃった～と思ったりしています。

MC：ではあっという間の1ヶ月だったんですね。何かキャストの皆さんとの思い出も聞きたいです。

森：一杯思い出がありすぎちゃって、例えば稽古場だと私たちは隣同士の席だったので非常に親密に、食べ物の行き来があって（笑）。ちょっとドーナツ買ってきてもらうとか。

彩風：そうですね、好きなドーナツが一緒でしたよね（笑）。あとクミさん（森公美子）がご飯を作ってきてくださって、しかもそれがオシャレなんです！

森：ある日はラザニア、ある日はボルシチなど。

彩風：それもウクライナの方に聞いた作り方で、「このヨーグルトを混ぜて味変してね」ってヨーグルトまでつけてくださって。あと私が買ってきたひじきと梅のおにぎりをよく食べていたんですが、それをクミさんが見ていてくださって、梅ひじきのおにぎりを握ってくださったんです！本当にありがとうございます。

森：いえいえ、もう自分の娘のような気持ちになって、私にとって本当に大切な人ですから。作ったら食べてくれるのも嬉しくて（笑）。もう、サキちゃんを太らせてしまったら皆さんごめんね～（会場笑）。

MC：劇中ではお二人が一緒にいる姿は見られないので、こういうお二人の交流というのが今回のトークショーを通じてお客様に知って頂けるのはすごく貴重な機会ですよ。

MC：彩風さんは今回初参加となりますが、今までお客様として見ていた『天使にラブ・ソングを～シスター・アクト～』の印象と、ご自身が参加されてからイメージは変わりましたか？

彩風：見ていて楽しい作品は参加しても楽しかったです！慣れないことも難しいことも沢山ありましたが、それを苦しいとは思わなかったですし、それ以上に作品と、作っている皆様のパワーを傍で感じられて嬉しくて、本当に楽しかったです。

森：楽しいのはやっぱりシスターのみんなと一緒にいるときで。めちゃくちゃ楽しくないですか？

彩風：楽しいですよ。

森：なんかいい雰囲気なんです。宝塚は女の人ばかりだからこういう感じのこなって思ったり。

彩風：シスターの皆さんの中になると、確かに似てるかもしれないですね。

森：皆で助け合ってね。楽屋でも「おはよう！」って言ってからずーっとワチャワチャして、最後に「また明日ー、お疲れー！」って言ってワチャワチャしてます（笑）。パワフルですね。サキちゃんと一緒にいるのがあと1ヶ月かと思うものすごく残念で！

彩風：色んなところに会いに行きますので飽きないでください！（笑）

森：飽きないですよ！もちろん私も行きますから！

MC：この後全国ツアーでは大阪、長野、宮城と回り大千穉楽が愛知となります。ツアー公演で何か楽しみにされていることはありますか？森さんのご出身の宮城もあります。

森：カンパニーの皆と一緒にいる事が楽しみというのはいちばんありますが、宮城は怖いですね。

彩風：怖い！？素敵なところじゃないですか～。

森：やはり同級生がいるので、同級生同士で年齢当てクイズできるんじゃないかって（笑）。同い年なのに老けてるわ、あの人若いわとか。あと、お薦めの牛タン屋さんがあるので、是非そちらにはお連れしたいと思っています。

彩風：牛タン大好きです！

森：既に予約済みです（会場拍手）。

彩風：お稽古場に一度笹かまぼこも持ってきてくださって！

森：紅しょうが入りのね。

彩風：すごく美味しかったです！

MC：そういった舞台の外でも気持ちの交流があるからこそ、素敵な舞台に繋がっていくんだと思いますが、本当にもうこの作品は、音楽も素晴らしい、作品そのもののエンターテインメント性も素晴らしいですね。そんな中で、あえてこのシーンが自分にとって大事だっているところを教えてください。

森：私は先ほどのトークショーでは修道院長とのシーンと言いましたが、それ以外だと、カーティスについて見つかった時にシスターの皆さんが私を守ってくれるんです。そのシーンは、もういつまで経っても慣れないというか、思わず涙が出るシーンの一つですね。

MC：もう今も森さんの目がウルウルされて…

森：あのシーン好きですね。

彩風：胸がいっぱいになります。

森：初演のカーティス役で吉原光夫さんが演じられてたんですが、稽古中、カーティスの前にどンドンシスターが立ち足はだかる場面になった時に、カーティスも涙ぐんでいて…。「カーティスがそうしなければこんなことにはならないのに！」みたいな（笑）。でも、そこで泣いてたのを見て、みんながまた一緒になって泣くみたいなことがあって。本当に素敵な作品です。

MC：彩風さんはいかがですか？

彩風：やはり2幕ですかね。1幕は修道院にデロリスが入ってきてシスターの皆と打ち解け始めたかなぐらいで終わるんですけど、2幕に入ると皆が仲間のように入られてくれてるところからのスタートなので、その2幕頭の「Sunday Morning Fever」というナンバーはすごく楽しいです。あとは、そこから繋がっていくと、シスターの皆がバジャマを着て、夜に訪ねてくるシーンがありまして、そこまでのシーンがすごく幸せで。それまでデロリスが感じたことのないであろう幸せを一杯感じられている瞬間で、すごく好きですね。

MC：お二人がこうやって魂を込めて演じているんだ、ということが分かるのとこれからご覧になる皆さんの見方というのもし少し変わるんじゃないでしょうか。では最後に、お一人ずつメッセージをいただけたらと思います。

彩風：もうご覧になってくださった方も、これから観劇される方もいらっしゃると思うのですが、『天使にラブ・ソングを～シスター・アクト～』は本当に素敵な作品です。クミさんは日本初演から12年ずっと演じながら守り続けてくださっていて、ツレさん（鳳蘭）や、シスターの河合篤子さんも初演から出てらっしゃいます。皆さんが守ってこられたもの大切さを感じながら、これまで色んなキャストの方が演じられてきた変化も感じていただけたと思います。皆さんハッピーになっていただける作品ですので、ツアーでは各地参りますので、是非皆様お待ちしております。

森：これからツアーで各地に行くわけですので、上田市（長野公演）は東京からすぐですから！お待ちしております。（トークショーに越越しの）皆さん、しっかり顔覚えておきますからね（会場笑）。

MC：この後のツアーも楽しみにしております。ありがとうございました。